

---

## シンポジウム7

---

### 泌尿器緊急疾患と外傷の初期対応

座 長 井 上 幸 治 (倉敷中央病院泌尿器科)  
荒 木 元 朗 (岡山大学泌尿器科)

#### 司会のことば

泌尿器科領域において、急性の症状や外傷は、迅速かつ適切な対応が求められる重要な分野である。本稿では、それぞれの専門分野をリードする先生方に具体的な症例や最新の知見を交えながら、急性陰嚢症、尿閉、敗血症、外傷など多岐にわたる泌尿器科の緊急疾患に対する初期対応について詳細に解説いただく。

愛媛大学の杉原直哉先生には、急性陰嚢症、尿閉、膀胱タンポナーデ、そして持続勃起症といった、泌尿器科で頻繁に遭遇する緊急疾患について解説いただく。これらは患者の生活に重大な影響を与える疾患であり、迅速な診断と治療が求められる。

岡山大学の三井將雄先生には、泌尿器科の感染症の中で特にフルニエ壊疽に焦点を当て解説をいただく。フルニエ壊疽は、重篤な経過をたどることが多く、適切な治

療が急務となる。

倉敷中央病院の松田伊織先生からは、腎および尿道外傷について、最新の治療法や診断アプローチを学ぶ。外傷による泌尿器損傷は、救急の現場で泌尿器科が呼ばれる頻度の高い重要な疾患であり、適切な処置が患者の予後を左右する。

静岡市立静岡病院の八木橋裕亮先生には、膀胱や生殖器の外傷、医原性尿路損傷について解説いただく。八木橋先生は台湾での救急医療に携わられた貴重な経験もお持ちである。これらの損傷は、手術や医療処置中に起こった場合トラブルになる可能性も高く、医療安全上も大変重要である。

今回のシンポジウムを通じて、泌尿器科の緊急疾患や外傷における初期対応の重要性を再確認し、皆様の今後の臨床に役立てていただければ幸いである。